

(様式第1号)

令和1年9月27日

認定介護福祉士認証・認定機構  
理事長 大島 伸一 様

領域名：マネジメントに関する領域  
科目名：法令理解と組織運営  
単位数：1  
認証申請する研修の名称：認定介護福祉士養成研修

団体名：一般社団法人岡山県介護福祉士会  
団体事務所の所在地：〒700-0807  
岡山市北区南方2-13-1 きらめきプラザ7階  
電話：086-222-3125  
FAX：086-222-6780  
E-mail：okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者：会長 安達 悦子 ㊟  
申請責任者：事務局長 神實 誠子



記

○認定介護福祉士研修認証申請書（別紙1～3）

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙 1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号

(※は記入しないでください)

認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	令和1年9月27日
申請団体名	一般社団法人岡山県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 安達 悦子
申請責任者職名	事務局長
申請責任者氏名	神寶 誠子
団体住所	〒700-0807 岡山市北区南方 2-13-1 きらめきプラザ 7 階
同 Tel・Fax	Tel : ( 086 )-( 222 )-( 3125 )
メールアドレス	Fax : ( 086 )-( 222 )-( 6780 ) E-mail <u>okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp</u>
申請対象の領域	領域名 : マネジメントに関する領域
科目名 (単位数)	科目名 : 法令理解と組織運営 (1 単位)
申請する研修名	認定介護福祉士養成研修
研修認証実績	年 認証番号 ( )
	年 認証番号 ( )
	年 認証番号 ( )
その他特記事項	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	マネジメントに関する領域	
科目名	法令理解と組織運営	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護サービス提供の根拠となる法令について理解やリスクマネジメントの概念や対応について理解させるとともに、それらを他の介護職に指導できるようにする。</li> </ul>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者に適切なサービスを提供するための根拠となる、福祉・保健・医療の法令と組織運営のルールのポイントについて概説できる。</li> <li>・法規の構造と調べ方を理解し、必要な時に法令の根拠を確認することができる。</li> <li>・法令と組織運営のルールを踏まえて行動し、他の介護職に指導できる。</li> <li>・リスクマネジメントの概念について説明できる。</li> <li>・事例に基づいて、事故の要因分析、関係者や機関への説明や対応策、再発防止策について検討できる。</li> <li>・日常的に発生しやすいリスクを発見し、防止策を講ずるとともに、事故発生時の初期対応の重要性を認識し、当事者意識をもって早期に解決する姿勢を確立する。</li> </ul>	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○法令理解と組織運営 <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係法令と運営基準を遵守の重要性</li> <li>・介護サービス組織にかかる関連法規の種類…介護保険法、障害者総合支援法、指導監査、情報公表制度、第三者評価制度、苦情解決制度、虐待防止法、労働法規、個人情報保護法、生活保護法、成年後見制度、地域福祉権利擁護、日常生活自立支援事業など</li> </ul> </li> <li>○法規の構造 <ul style="list-style-type: none"> <li>・法規の構造</li> <li>・事業関連法規</li> <li>・介護報酬・給付費の構造</li> </ul> </li> <li>○コンプライアンス <ul style="list-style-type: none"> <li>・適正運営のための書類の重要性</li> <li>・自組織のサービスの根拠条文等の理解</li> <li>・自己点検シート等を用いた、運営基準、算定基準の読み方</li> <li>・法規・制度を踏まえたコンプライアンスの実践</li> <li>・コンプライアンスが実践されるための組織風土・文化</li> <li>・指導監査、外部監査、情報公表制度、第三者評価制度、苦情解決制度等外部監査及び評価の意味を活用方法</li> </ul> </li> <li>○リスクマネジメント <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護現場におけるリスク対応の意義と対策（ES、CS、コンプライアンス、利用者・家族とのコミュニケーション、従業員の満足度、事故に関わったスタッフ</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事前課題①（2時間） 社会福祉法及び介護保険法、並びに運営基準等を読み、介護サービス提供にかかわる根拠が記されていることを自己学習する。</li> <li>○事前課題②（2時間） 利用者の尊厳に焦点をあて、尊厳が法令等でどのように規定され、尊厳を守るためにはどのような視点や方策が必要なのか、自らの考えをA4、1枚程度でまとめる。</li> <li>○講義 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 関連法規に関する講義を行う。（2時間） <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護サービス提供の基本となる社会福祉法及び介護保険法の解説を行い、事前課題①で学習したことについて関連する法規がどのような経緯で制定され、どのような内容を規定しているかを解説する。</li> <li>2. 社会福祉法に関しては、2000年及び2016年の改正に焦点をあて、新たに規定された条項の解説を行う。</li> <li>3. 2000年以降相次いで虐待防止法制、個人情報保護法、障害者総合支援法制定の背景とその意義について事前課題②で学習したことを基に解説を行う。</li> <li>4. 福祉サービスがこれら法や基準のもとに提供できることを知り、コンプライアンスの意識を高める。</li> </ol> </li> <li>② 経営学の視点から講義を行う。（2時間） <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンプライアンスを実践するためには、以下の視点を中心に組織のマネジメント体制を確かなものとして構築しておく必要がある事を解説する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・決まったことを決まるとおりする組織風土の醸成。</li> <li>・トップのリーダーで推進することの重要性と、それを支えるリーダーの役割</li> <li>・提供したサービスの証拠となる記録の意義と作成方法</li> <li>・SDCAサイクルとPDCAサイクルの違いと実践方法</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol> </li> </ul>

	<p>へのケアなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護現場における介護事故の特性とリスク（利用者の期待、顧客満足度、標準化</li> <li>・事故に対する分析手法（4M4E, Shel, ひやりハット、全員参画による是正対策、継続改善等）</li> <li>・予測可能性、回避可能性と対応策</li> <li>・苦情対応とサービスの質向上と評価、予防対策の重要性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不安や危険を共有し、改善につなげる組織体制づくり</li> </ul> <p>③ リスクマネジメントの講義を行う。(2時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福祉サービスにリスクマネジメントの概念が導入された背景について解説する。</li> <li>2. 福祉サービスのリスクマネジメントの基本的視点を法的根拠のもとに解説する。</li> <li>3. 事故、苦情発生、通報、内部告発、訴訟のメカニズムと再発防止策構築の背景について解説する。高齢者虐待対応やヒヤリハットの活用についても解説する。</li> <li>4. 近年注目されている人事・労務管理のリスク、災害のリスク等、サービス提供に関する組織経営全体に影響するリスクと、その対策方法について解説する。</li> <li>5. リスクマネジメントシステム構築に当たっては、関連するスタッフが確実に使えるものであることが重要である事を解説する。</li> </ol> <p>④ リスクマネジメントの演習を行う (2時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. サービスの質を証明する業務手順書の作成方法と記録方法に関する演習を行う。</li> <li>2. 事故・苦情の再発防止に資すRCA分析の演習を行う。</li> <li>3. 危険予知トレーニングの演習を行う。</li> </ol> <p>⑤ 筆記試験 (25問)</p> <p>○事後課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習を基に事後学習として自事業所における事故対策についての問題点を洗い出し、それに対する改善策をレポートにまとめる。(3時間以内)</li> </ul>
<p>研修方法</p>	<p>■ 集合研修</p> <p>■ 課題学習</p> <hr/> <p>○集合研修講義と演習を組み合わせで行う。</p> <p>○課題学習は事前課題として、①資料を読み自己学習、②レポート課題を課す。事後課題としてサービスの質の評価やリスクマネジメントに関する取り組みの必要性についての理解をレポート提出させる。評価は担当講師が行う。</p>	
<p>研修時間</p>	<p>15時間（集合研修8時間、課題学習7時間）</p>	
<p>修了要件</p>	<p>○全課程の出席を要する。公共交通機関の影響、冠婚葬祭、担当する利用者の急変といったやむを得ない事情による遅刻、早退については合計30分（遅刻、早退それぞれ15分）を上限として認める。やむを得ない事情による30分以内の遅刻・欠席があった場合、当該科目の講師の資料またはテキストによるレポート課題を提出する。</p> <p>修了評価として以下により行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 法令テスト（基礎的な知識と法令や運営基準のポイントに関する筆記試験（25問、50点満点）</li> <li>② 事後課題は、50満点で評価する。</li> <li>③ ①50点、②50点の計100点とし、60点以上を修了要件とする。また、100点満点中80点以上をA評価、70～79点をB評価、60～69点をC評価とし、D評価の場合は再試験を行う。なお、再試験は複数回の受験を可能とする。</li> </ol>	
<p>講師要件（講師の選定基準）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験があること</li> <li>・修士課程を修了していることが望ましい</li> <li>・介護保険施設における施設長、または指定事業所の管理者を統括、管理する管理職経験者が望ましい</li> <li>・法令順守責任者としての実績があることが望ましい</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政指導監査を受けたことのある経験者が望ましい</li> <li>・ 業界に拘らず品質管理における実務経験者が望ましい</li> <li>・ 介護事故の解決方法及び関連法規の適用などを踏まえると、法令、保健会社等の知見から指導できるものが望ましい</li> </ul>
(2) 受講者について	
受講対象 (受講要件)	<p>単位取得できるのは介護福祉士資格を有する者であること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ I類を修了していること。</li> <li>・ ユニットリーダー又はサービス提供責任者以上の職歴が3年以上の者が望ましい。</li> </ul>
修了評価	<p>修了評価は以下により行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 法令テスト：基礎的な知識の確認と法令や運営基準のポイントに関する筆記試験（25問、50点満点）</li> <li>② 事後課題「演習で学んだことの中から、自組織で取り組む改善策を決め、実施をする。その結果を事実ベースで記述し、何が改善され、何が課題として残ったのか、その残った課題に対し、今後どのように取り組むのか」A4 1枚（1600文字程度）にまとめる。（50点満点で評価）</li> </ol> <p>（評価基準）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運営基準等の要請を踏まえて、自組織・チームのコンプライアンス上の取り組みを点検したうえで、改善策が具体的に考察・記述できている。</li> <li>・ 自職場・チームの介護事故にかかる情報収集、原因分析、再発防止策の取り組みを点検したうえで、改善策が具体的に考察・記述できている</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>③ ①50点、②50点の計100点として、60点以上を修了要件とする。100点満点中80点以上をA評価、70～79点をB評価、60～69点をC評価とする。60点以下の場合は再試験を行う。なお、再試験は複数回の受験を可能とする。なお、集合研修を欠席した場合、課題が提出されていても修了を認めない。</li> </ol>
(3) 研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	15名（講師1名）演習時も同じ講師が行う。
開催場所（都道府県）	岡山県

## (別紙3) 認定介護福祉士研修認証

## 認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 2022年(調整中)
	②
	③
開催場所(会場)	① 岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館 (岡山市北区南方2-13-1)
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	担当講師(演習・課題・評価): 難波 淳人 氏
	<b>【職歴】</b>
	知的障害者更生施設ひまわりの園指導員 3年3か月 特別養護老人ホーム浮洲園在宅介護支援センター 社会福祉士 5年5か月 特別養護老人ホーム浮洲園生活指導員 4年 地域包括支援センター介護支援専門員 1年 特別養護老人ホーム浮洲園、ケアハウス浮洲園 施設長 10年
	<b>【講師経験・社会活動等】</b> 川崎医療福祉大学 医療福祉学科非常勤講師 5年 倉敷市介護認定審査会 委員 国政調査員 平成22、27年
<b>【著書等】</b>	
(3) 実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	認定介護福祉士養成研修実行委員会(岡山県介護福祉士会 正副委員長・事務局員) 10名内常勤2名
研修の企画運営に関する 諸規程	岡山県介護福祉士会定款に準ずる
研修管理責任者職名	岡山県介護福祉士会研修委員長
研修管理責任者氏名	松島 智枝美
機構問合せ先部署	岡山県介護福祉士会事務局
機構問合せ先担当者氏名	藤原 美恵子
機構問合せ先電話番号/FAX	TEL 086-222-3125/ FAX 086-222-6780
機構問合せ先 e-mailアドレス	okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp
受講問合せ先部署	岡山県介護福祉士会事務局
受講問合せ先担当者氏名	藤原 美恵子
受講問合せ先電話番号/FAX	TEL 086-222-3125/ FAX 086-222-6780
受講問合せ先 e-mailアドレス	okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp

(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	岡山県介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■紙媒体及びデータによる台帳管理</li> <li>■外付けディスクにバックアップデータを保管する</li> <li>■データ保存期間は10年間、その後は外付けディスクでデータを保管する。</li> <li>■個人情報の取り扱いにあたっては、法律を遵守する。</li> </ul>
受講履歴の証明	各科目を修了した時点でその科目の修了証明書を発行し、全過程を修了した者には、岡山県介護福祉士会会長名による修了証明書を発行する。
管理責任者氏名	事務局長 神寶 誠子
管理担当者氏名	事務局員 藤原 美恵子

(別添資料)

集合研修における具体的なコマシラバス

申請対象の領域 マネジメントに関する領域

科目名 法令理解と組織運営

集合研修の総時間数 8時間

1日目(8時間)

時間	テーマ	展開内容(講義ポイントや演習の展開内容)	留意事項等	担当講師
9:00～ 10:30	○介護サービスにかか る関連法規の全体像と コンプライアンス	(講義) ・関連法規の全体像を理解する。 ・コンプライアンスの考え方と必要性を理解する。 ・日常業務におけるコンプライアンスの遵守と取り組 みを評価する仕組みを理解する。		難波淳人
10:40～ 12:10	○人員設備運営基準と 介護報酬算定基準	(講義) ・基準の調べ方、構造、根拠を理解する。 (演習) ・自事業所のコンプライアンスの現状をめぐる課題に ついてディスカッションする。	・事前課題として自事業 所の人員・設備基準、1 日あたり利用料(基本介 護報酬単価及び加算)に ついて把握しておく。 ・1グループ5名にてデ ィスカッションを行う。 【参考資料】 ・介護報酬の解釈【1:単	難波淳人



			位数表編、2:指定基準編 3:QA・法令編】(社会保険 研究所) ・社会福祉法人設立・運 営ハンドブック(中央法 規)	
12:10～ 13:00	昼休憩			
13:00～ 14:30	○リスクマネジメント	(講義) ・リスクマネジメントの考え方と体制作り(全員参画 と継続的改善についてなど) ・介護事故発生時の対応、再発防止と事故予防(ヒヤ リハット等記録の整備、行政への報告、利用者説明 と期待に基づくマニュアルの標準化や是正対策な ど) ・苦情対応とサービスの質向上(利用者説明と期待に 基づくマニュアル標準化や是正対策など) ・損害賠償責任について(通報、訴訟、内部告発のリ スク、利用者説明と期待に基づくマニュアル標準化 や是正対策など) ・高齢者虐待対応について	<b>【参考資料】</b> ・介護リスクマネジメン ト 事故防止編、トラブ ル対策編 山田滋著(講 談社) ・介護リスクマネジメン トについて(全国老人福 祉協議会) ・苦情対応マニュアル (全国老人福祉協議会)	難波淳人
14:40～ 16:10		(演習)	・1グループ5名にてデ イスカッションを行う。	難波淳人

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護事故の要因分析、再発防止策の検討を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習を基に事後学習として自事業所における事故対策についての問題点を洗い出し、それに対する改善策をレポートにまとめる。(3時間以内)</li> </ul>	
16:15～ 17:00	修了試験	筆記試験 25問		

## 主担当講師の教育活動履歴等

### 1. 氏名

難波淳人

### 2. 現在の所属

特別養護老人ホーム浮洲園

### 3. 略歴（職歴、講師経験・社会活動等）

#### 3-1. 職歴〔介護・福祉に関する実務経験、教育・研究活動歴等〕

知的障害者更生施設ひまわりの園 指導員 実務経験 3年3ヵ月  
浮洲園在宅介護支援センター 社会福祉士 実務経験 5年5ヵ月  
特別養護老人ホーム浮洲園 生活相談員 実務経験 4年  
地域包括支援センター 介護支援専門員 実務経験 1年  
特別養護老人ホーム浮洲園 施設長 実務経験 10年  
ケアハウス浮洲園 園長 実務経験 10年

#### 3-2. 講師経験・社会活動等〔介護・福祉に関する講師活動、調査・研究・評価等の活動〕

川崎医療福祉大学 医療福祉学科 非常勤講師 5年  
担当科目：社会福祉援助技術 実習指導Ⅱ

倉敷市介護認定審査会 委員 H23年4月～現在  
国政調査員 H22年、27年

### 4. 著書等